

■河南町地域公共交通計画素案に係る意見交換の主な意見

	石川区域	白木・河内区域	中村区域	大宝区域		さくら坂区域
開催日	平成26年10月8日(水)	平成26年10月3日(金)	平成26年10月7日(火)	平成26年10月8日(水)	平成26年10月24日(金)	平成26年10月1日(水)
地域公共交通全般について	このアンケートでは何で困っているのかというのがでない。石川地区では買い物については充実しており困っていない。高齢者の人たちは病院へ行く交通手段で困っている。	鈴美台地区は山間部と違って地域住民のコミュニケーションもないので、家族間でどうにかするしかない。また、学生は車の免許を取ることもできないので大変困っている。	地域でコースを考えるのではなく、時間帯でコースを考えればよい。昼間は高齢者が主になるのでデマンド、早朝深夜は通勤通学を対象に循環バスを走らせる	需要の少ないところに多額な経費をかけてバスを走らせるより、補助を出してはどうか。	まちづくりを考える上で、バス交通問題を解決しないといけない。	河南町は交通手段では非常に不便なところでそれが理由で町外へ出ていく人も実際にいる。
	路線バス、やまなみバスの利用者低迷の原因を突き止めないと、この地域公共交通も失敗する。地域公共交通に何をくっつけるか。何をくっつければ利用者が増えるかをもう少し追求すべきである。	白木地区に関しては路線バスが近くを走っているの、山手の地区ほど緊迫感はない。	オークワ自身が集客するためにバスをだしてもらうなども検討しては。	やまなみバスが走っていて、循環バスが通らないルートはどうなるのか。(町→4本柱の1つであるデマンド交通を検討)	5年先、10年先、15年先を見据えると循環バスをまずスタートしないといけない。	住民の流出を防ぐためには、公共交通を充実させ利便性を向上させるべきである。
	地域のニーズにあったバスを走らせるべき	富田林病院行きのバスが役場に来ており利用したいが、役場までのバスがないため利用できない。	地区での催しが活発で、寛弘寺では集会所を大改修してから集会所でのコミュニティ活動がかなり活発に行われている。	社協で福祉バスを運営してもらおうという事は考えられないのか。		地域公共交通について、他市町村の事例を見ていると福祉施策で行っている。
	路線バスが通っているところは、利用者がバスに時間を合わせれば乗ることができる。ただし、路線バスが通っていない山手の地域こそなんとかしなければいけない。	山手の地区の高齢者はすでに交通弱者となっており、4～5年後という問題ではなく、待てない。		大宝地区の中で交通問題について意見を集約し、盛り上げていきたい。とにかく循環バスが走るような状況になれば、空気バスにならないよう乗ってほしいという声は上がっている。		公共交通は住民の利便さを向上させるためにあるので、金剛バスではまかなえていない通勤・通学のための朝晩の時間帯にも運行し、駅までのルートを設定してほしい。町内を循環しても行くところがない。
	要望としては、やまなみバスのような大きなバスではなく小さいバスで家の近くまで来てほしい。	過疎化が進み、集落の存続も懸念される。				
	山手の地区は利用率や利益を考えると絶対無理なのはわかっている。どのような形でもいいので採算を考えなくてもよいなら福祉でも走らせてほしい。					
循環バスについて	路線バスとの乗り継ぎがうまくいけば、利用は見込めると思う。	山手の地域もデマンドバスではなく、便数は少なくとも循環バスで決まった時間にきていただきたい。高齢者にとってその都度予約をするのは面倒である。	事業者(金剛バス)とのwin-winの関係を作りながらやっていかないといけない。	今示されている循環バスでは、大宝からオークワへ行くのも思ってもさくら坂を回らないと行くことができない。買物を主とした路線が必要ではないか。	大宝地区としては北部のルートはこれで良い。	循環バスであれば地域住民同士のつながりもできるので地域の活性化につながる。
		やまなみバスの再編とあるがやまなみバスほど大きなバスは必要なく、10人乗り程度のバスでよい	役場に行くのにさくら坂を回って行かないといけない。誰が乗るのか。やまなみバスと何も変わらない。この公共交通にはメインがない。メインがないと誰も乗らない。買物バスを特徴にしては。	毎日運行じゃなくて隔日にし、他地区を回らないルート(大宝から目的地に直行)にすれば使い勝手が良い。	とにかく一歩を踏み出さないと行けない。意見の大勢は、北部循環ルートの試行運行を実施し、評価・改善のステップで進めて欲しい。	
		大宝・さくら坂は路線バスも通っている。本当に困っているのは路線バスが通っていない山手の地域で、地域住民で助け合いながらなんとか耐えている。循環バスが通っても乗るか乗らないかはわからないが、来てもらわないことには乗ることができない。困っている人たちは数が少ないかもしれないが確かにいる。		大宝地区からオークワへ行く際、循環バスルートを8の字で循環させれば北ルートと南ルートで乗換を行わなくていいのでは。	現在車利用の人をバスに乗るようにPRをする	
		循環バスは1時間に1本程度で循環するとのことであるが、バスの便数を15分に1本など利用しやすい状況であれば利用者は増えると思う。		8の字で巡回しても大宝からさくら坂へ行くことはない。地区ごとに目的を聞き取り、路線を組めばよい。大宝地区内を8の字で循環させればよい。	循環バスサービス区域外の対応を考えないといけない	
				いつごろから始めようとしているのか。やまなみバスが廃止になるから走らせるのか(町→住民意識の向上を図り、やまなみバスの廃止にあわせて実証運行予定)	このルートであればサンブラザ、万代にも行ける。今後はバス停をどのように決めていくかが問題である	
					試行実施は北部、南部ルートを一斉にスタートしないといけない。	
				バスを何便にし、どこの業者を使うのか。(町→住民主体で考えて頂きたい)	早く試行運行し、評価し、目標に届かなければ廃止になるという流れになることを周知しないといけない	

	石川区域	白木・河内区域	中村区域	大宝区域	さくら坂区域	
デマンド交通について	玉城町のようなデマンドバスであればニーズはあると思う。			デマンド交通は来年度以降の検討事項として継続していくべき	全町域デマンドの方が住民にとってはありがたい。	
				デマンドは住民負担がかかるのではないか	デマンドだと集団で動くというのには不向きであり、ただ人(老人)を運ぶという福祉視点で考えると効果的であるかもしれない。	
				玉城町のような全域デマンドはコスト等のことを考えると導入が難しいのではないかと。全域デマンドは無理だろう。		
住民意識について	石川地区の住民アンケートの回答率は10%台。路線バスの通っていない山間部の回答率は高い。	アンケート結果を見ていると路線バスとの共存ということが無視されていて、住民が全然理解していないのでは		住民は先のことを考えてまでバスを利用する気はない。今は困っていない。このままでは成功しない。どのように住民意識を向上させ、利用してもらえるようになるか考えているか。	アンケート票を見た人のうち(約2,000世帯 広報を見る人は約40%)、約70%の1,500世帯が回答している。	循環バスやデマンドバスを検討するというよりも、アンケート結果が低調であったのであれば、もう少し住民に対して啓発していき足元を固めるべきである。
		今回、このような会が開かれたということは、一部の人がだけに関心を持っておりほとんどの人が関心を持っていないからということが浮き彫りになったから開いたのか。(町→住民意識の向上が最も重要な課題)		役場が行ったアンケートの回答率が低調だったのは、回収方法が面倒であったため、回答されなかった人が多かった。		一番の課題は住民に対してどう伝えていくかである。
		行政が循環バスルートを示しアンケートを行ったが、河内地域の住民は行政が決めたならもう変わらないだろうとあきらめの気持ちがあったため、回答率が低調であったように感じる。				
やまなみバス				往路の便数は多いが復路が少ない。多くして欲しい。	現在運行しているやまなみバスは空気バスである。	
金剛バスについて			住民の話を聞いていると金剛バスは非常に不便だと聞いている。便数も少ないし夜も10時30分くらいまでは走ってほしい。利便性が向上されれば人口の流出もいとめられるのでは。	金剛バスが検討会議に出席しない理由は(町→路線の客が減ることを懸念している)	このルートを進めるには金剛バスとの協議が必要。	さくら坂住民にとっては金剛バスではオークワと万代へ行くことができない。そのため、(公共交通で行くことができる)商業施設が必要である。
				5丁目から大宝のバス停までつないで欲しいとの声もある。		